

# 活動報告書

報告者氏名：吉良和秀

所属：日出支援学校

記録日：2013年2月25日

## 【対象生徒の情報】

### ・学年

高等部3年生の男子

### ・障害名

・知的障がい

・LD. ADHD

### ・障害と困難の内容

・読み書きが困難である。

(読み・・・ひらがな程度。書き・・・ひらがなも含めほとんど書くことは困難である。)

・自己肯定感が低く、失敗を恐れ活動を拒む場面がみられる。

・集団活動が苦手であり、特に他の生徒を意識すると活動ができなくなることがある。

## 【活動目的】

### ・当初のねらい

保育園就労に際して規則的な生活習慣を確立・継続するため、ipad を使用して一日を振り返って日記を録音し、自己評価を適切に行うことで、充実感や目標を持って働き続けることができる態度を養う。また絵本の音読や折り紙などの保育園でおこなわれる遊びに慣れ、卒業後の生活の中で必要な調べもの、料理などに積極的に取り組むことができるよう、生徒の実態に合った音声機能付きアプリを検索・学習する。

### ・実施期間

① ipad アプリ AudioMemos を使用して夏休み中に音声日記を録音した。(1～2学期)

② ipad アプリ DropTalk を使用して就労内定保育園の職員の顔と名前を覚える練習をした。  
(3学期)

### ・実施者

赤木歩 (臨時講師)

### ・実施者と対象児の関係

学級担任

## 【活動内容と対象生徒の変化】

### ・対象生徒の事前の状況

集団での活動が苦手で、特に初めての活動に関しては消極的な態度が顕著に表れる。読み書きが困難であるため、板書でのクラス単位の事前学習（手順やスケジュールの把握）に参加することを拒絶しがちであった。活動に参加したとしても事後も苦手意識だけが残りに、何ができ・できなかったのかなどの振り返りをする機会を逃しがちであった。

### ・活動の具体的内容

① AudioMemos を使用して8月5日から9月上旬まで毎日音声日記を録音した。対象生徒が自宅で一日を振り返って、その日印象深かったことや、感じたこと、翌日への意気込み等を自由に吹き込んだ。

② DropTalk を使用して就労内定後の保育園の職員の顔（画像）と名前（音声）を iPad に取り込んだ。定着実習中の対象生徒が、帰宅後に思い出せない保育園の先生の名前を自主的に確認することができ、職員間の円滑なコミュニケーションの支援になるのではないかと考えた。

### ・対象生徒の事後の変化

対象生徒にとっては活動の実践が行動支援において最も有効な手段であり、経験済みの活動については回を重ねる度に対抗感が薄れ、自然に取り組むことができるようになってきている。

## 【報告者の気づきとエビデンス】

### ・主観的気づき

卒業後の就労生活に近い状況下で iPad 支援ツールを使用したことで、「卒業後にどんな支援があれば生活上の困りが少なくて済むか」を対象生徒自身が具体的に考えることができるようになった。

### ・エビデンス

活動① 対象生徒は9月3日（月）の家庭科の調理実習には体調不良を理由に参加できなかったのだが（これまでも調理実習にはほとんど参加してこなかった）、帰宅後生徒が録音した日記には「次は参加したい」と意欲的な発言が吹き込まれ、実際、翌週の9月10日（月）の調理実習には目標通り参加することができた。最近では苦手だった試食にまで参加できるようになった。

活動② 対象生徒にとって慣れない環境下で初めての活動が多い保育園実習において、保育園職員の顔と名前のデータを家庭でいつでも確認できる状況におくことで、安心感をもって実習に取り組むことができた。実習終了後も、話しやすかった先生や就労後の配属クラスの複数の担任を忘れないよう、継続して学習をおこなっている。

### ・その他エピソード

「iPad を利用して何ができると助かるか」を対象生徒自身が考え、いろんなアプリを試す中で、自分に合ったアプリを取捨選択し、卒業後に使用する場面を想定して学習に取り組むことができた。現在は生徒私物の iPhone に移行してスケジュールのメモやお小遣い管理などに役立つアプリを検索中である。必要や困りに応じて、アプリを利用する場面、誰かの助けを借りる場面、繰り返し実践してできるようになる場面を生徒自身が自覚できるよう当面のリストを作成し、卒業後の不安が少しでも軽減できればと考える。



図1：個別授業の様子（美術室にて）